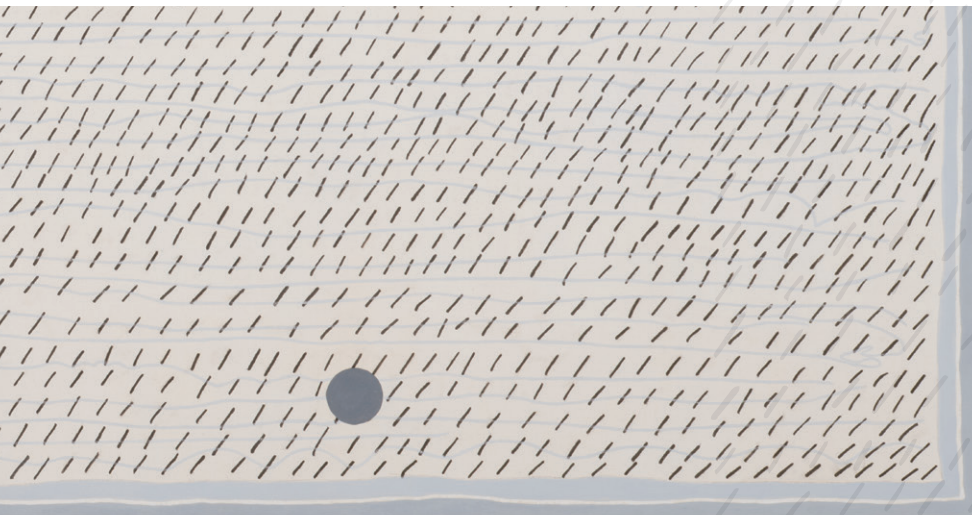


清須市はるひ絵画トリエンナーレ



Hiro Tsuchiya
土屋裕央

土屋裕央《海への視点》(部分) 2021年 油彩、綿布、パネル Photo by Yuma Nishimura. Courtesy of Gallery Common.

観察の しるし

アーティストシリーズ+

Kiyosu City Haruhi Painting
Triennale Artist Series +
Signs of Perceiving



Emi Hiramatsu
平松絵美

平松絵美《机の上の布い話》(部分) 2025年 岩絵具、矢車、雲肌麻紙、パネル

Sae Shimizu
清水彩瑛



清水彩瑛《見えてなくても身体は向いているの おみもの(群景/両眼で見る)》(部分)
2026年 透明水彩、アクリル絵具、パステル、石粉粘土、もちもちポア、スムーズニット

2026.7.10 | 金 | → 9.3 | 木 |

開館時間：10:00-19:00(入館は18:30まで)

休館日：月曜日(祝日の場合は開館、翌平日が休館)

観覧料：一般 350円(300円) 中学生以下無料

()内は各種割引料金(20名以上の団体、清須市立図書館貸出利用カード提示者など)・
各種障がい者手帳等提示者及び付添人1名は無料

主催：清須市はるひ美術館

清須市はるひ美術館



同時開催 | 清須市はるひ美術館 収蔵作品展

〒452-0961 愛知県清須市春日夢の森1
TEL 052-401-3881
<http://www.museum-kiyosu.jp>

清須市はるひ絵画トリエンナーレ アーティストシリーズ+ 観察のしるし

本展では、制作の中でおこなわれる観察に注目し三名のアーティストの作品をご紹介します。清水彩瑛は、見ているものの状況と触れた時の手ざわりに反応しながら、性質の異なる素材を用いた絵画とコラージュドローイングを展開します。土屋裕央は、生と死、時間、宇宙空間といった事象について思索し、同じ図の反復や、線と点、色面に置き直すことでイメージへと転換します。平松絵美は、生物や植物、本、置物などが寄せ集められた状況を細やかに描写し、画面の中で取り留めのないものたちが均しく共存する世界をつくりあげます。三者の作品はテーマも表現手法も異なりますが、制作において自身の思考や感覚、あるいはものの状態への注意深い観察が窺えます。彼らの作品から見出される視点は、ものごとの捉え方とその差異のあり方について示唆を与えてくれるものとなるでしょう。観察から生まれる三者の作品と、それぞれの視座が響き合う展示空間をぜひじっくりとご覧ください。

アーティストシリーズ+

当館では1999年の開館から2021年まで絵画の公募展を継続し、その時代ごとに表れる絵画表現の変遷を映し出してきました。また、新たな才能の発掘と育成を目指し、公募展の受賞者・入選者による展覧会「アーティストシリーズ」を並行しておこなってきました。当館の特色として広く認識されてきたこれらの取り組みは、一過性のコンペティションの枠組みを超え、新進作家たちの挑戦の場としての役割も果たしてきたと言えます。「アーティストシリーズ+」では、これまでの取り組みを継承しつつ、当公募展で入選、佳作となった方々でその後も継続して活動をおこなっているアーティストをグループ展形式で取り上げます。

夢広場はるひ
清須市はるひ美術館

〒452-0961 愛知県清須市春日夢の森1
 TEL 052-401-3881
<https://www.museum-kiyosu.jp>

交通案内
 ●電車でお越しの場合
 JR東海道本線「清洲」駅下車 徒歩約20分
 名鉄「新清洲」駅、JR「枇杷島」駅、JR「清洲」駅から「きよすあしがるバス」に乗り、「夢広場はるひ(図書館・美術館)」下車すぐ
 ●車でお越しの場合
 名二環 清洲東ICより約5分
 名神高速道路 一宮ICより約20分
 名古屋高速道路 一宮からは春日出口より約5分 / 名古屋からは清須出口より約5分
 ※無料駐車場をご利用ください(104台)
 清須市はるひ美術館はTRC-名古屋三越グループが管理・運営しています。



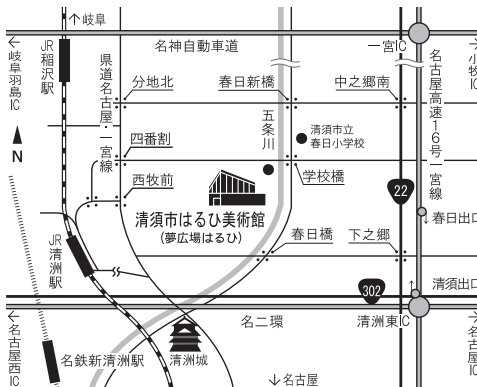
清水彩瑛「パンパスグラスの庭」展示風景(ギャラリー八角)
 2024年



土屋裕央《雑草と宇宙について》
 2026年 油彩、綿布、パネル



平松絵美《あの日の贈り物》
 2024年 岩絵具、矢車、雲肌麻紙、パネル



出品作家

清水彩瑛 Sae Shimizu

1995年滋賀県生まれ。2020年京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻(油画)修了。
 近年の主な展覧会に、2026年「あったこと・間・遠くをみる」cumonos(大阪)、2025年「土星、サルパ、噴水のおもかげ」Sfye Space[Sfye.M](京都)、「糸運びのあらまし」じ(さんずい)京都)、「ぼんやりながめてふにおちる」kumagusuku(京都)、2024年「やくわりとうつろい」ギャラリー恵風(京都)、「パンパスグラスの庭」ギャラリー八角(京都)、「逃げ水をすくう」The Terminal KYOTO(京都)、2023年「SEE~SAW」kumagusuku SAS(京都)、2019年「Tourbillon 17」0ギャラリーeye(大阪)など。
 2021年「清須市第10回はるひ絵画トリエンナーレ」入選、2018年「清須市第9回はるひ絵画トリエンナーレ」佳作。

土屋裕央 Hiro Tsuchiya

1987年山梨県生まれ、東京都出身。2010年法政大学経済学部中退、2014年東京造形大学造形学部美術学科絵画専攻領域卒業、2016年東京造形大学大学院造形研究科造形専攻美術研究領域修了。
 近年の主な展覧会に、2025年「Tennoz Contemporary: Art Fair Together」MAKI Gallery(東京|KOKI ARTS)、2024年「Eudaemonia」Gallery Common(東京)、2023年「境界のかたち」EUREKA(福岡)、2022年「Landscape」KOKI ARTS(東京)、2021年「One-Day Exhibition by KOKI ARTS(井上光太郎・土屋裕央・Storm Tharp・Mario Trejo)」Ino-ma(東京)、2019年「FACT AND FICTION」SPRING/BREAK Art Show(ニューヨーク)、2018年「The Crossing」GALLERY EXIT(香港)、2016年「人見ヶ浦よりーWatching Man from Hitomigaura Bayー」児玉画廊(東京)など。
 2018年「清須市第9回はるひ絵画トリエンナーレ」佳作。

平松絵美 Emi Hiramatsu

1979年愛知県生まれ。2002年名古屋芸術大学美術学部絵画科日本画コース卒業、2003年名古屋芸術大学研究生修了。
 近年の主な展覧会に、2025年「平松絵美展 -地上と楽園-」Nii Fine Arts(大阪)、「地上と楽園」Jutatane banané(愛知)、2023年「平松絵美展 雨は天から横には降らず風の吹きよで横に降る」Nii Fine Arts(大阪) / GALLERY IDF(愛知)、2015年「豊穣なるもの 現代美術in豊川」豊川市桜ヶ丘ミュージアム(愛知)、2014年「平松絵美展 思い出しと引き換えに日常を取り換える」GALLERY IDF(愛知)、2010年「やぎの家展」art+age Gallery(愛知)など。2018年「シェル美術賞」入選、2023、2024年「FACE展」入選、2001、2002、2003年「日展」入選。
 2018年「清須市第9回はるひ絵画トリエンナーレ」佳作。

関連イベント 最新情報は当館ウェブサイトをご確認ください。

アーティストリレートーク

出品作家3名が展示作品を前にお話します。
 日時:7月19日(日) 13:30~(1時間ほど)
 出演:清水彩瑛、土屋裕央、平松絵美
 聞き手:加藤恵(清須市はるひ美術館)
 事前申込み不要、無料(要観覧券)

「地上の家」をつくろう [要事前申込]

平松さんの作品「地上の家」をみんなでつくってみよう!
 講師:平松絵美(出品作家)
 日程:8月2日(日)
 時間:14:00~16:00(つくり終えたら各自解散)
 対象:どなたでも(小学3年生以下は要保護者同伴)
 費用:無料(要観覧券)
 定員:15名
 申込み:当館までお電話ください(052-401-3881)



平松絵美
 《地上の家》展示風景
 2025年